

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2016-120210

(P2016-120210A)

(43) 公開日 平成28年7月7日(2016.7.7)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 6 1 F 13/15 (2006.01)	A 6 1 F 13/18 3 3 0	3 B 2 0 0
A 6 1 F 13/472 (2006.01)	A 4 1 B 13/02 A	
A 6 1 F 13/49 (2006.01)		

審査請求 未請求 請求項の数 11 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2014-263377 (P2014-263377)	(71) 出願人	000115108
(22) 出願日	平成26年12月25日 (2014.12.25)		ユニ・チャーム株式会社
			愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地
		(74) 代理人	110001564
			フェリシテ特許業務法人
		(72) 発明者	野本 貴志
			香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7
			ユニ・チャーム株式会社テクニカルセン
			ター内
		F ターム (参考)	3B200 AA01 AA03 BA11 BB05 BB09
			CA15 DA01 DA16 DB01 DC01
			DD01

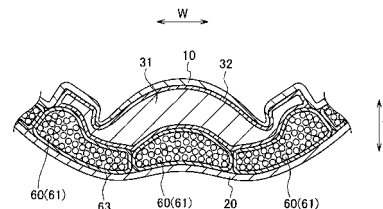
(54) 【発明の名称】 吸収性物品

(57) 【要約】

【課題】吸収性物品の形状を着用者の体の形状に追従させ、吸収性物品の装着感を向上させる。

【解決手段】吸収性物品 1 は、表面シート 1 0 及び吸収コア 3 1 を有する吸収性物品 1 であって、前記吸収コアを含む本体部 2 と、多数の粒状体及び前記多数の粒状体を包み、伸長可能な包装体 6 3 を含む粒状層 6 0 とを備え、前記粒状層は、前記表面シートよりも非肌当接面側において、平面視にて前記本体部の少なくとも一部に重なる。

【選択図】 図 3



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

表面シート及び吸収コアを有する吸収性物品であって、
前記吸収コアを含む本体部と、
多数の粒状体及び前記多数の粒状体を包み、伸長可能な包装体を含む粒状層とを備え、
前記粒状層は、前記表面シートよりも非肌当接面側において、平面視にて前記本体部の
少なくとも一部に重なる吸収性物品。

【請求項 2】

前記包装体において厚さ方向の外側であり、かつ肌当接面側及び非肌当接面側のうち少
なくとも一方の面は、伸縮可能である請求項 1 に記載の吸収性物品。

10

【請求項 3】

前記吸収コアの非肌当接面側に配置された裏面シート及び前記吸収コアを覆うコアラッ
プを備え、

前記表面シート、前記裏面シート及び前記コアラップを含むシートにおける平面視で前
記粒状層と重なる部分のうち少なくとも一つは、伸長可能である請求項 1 又は 2 に記載の
吸収性物品。

【請求項 4】

前記表面シート、前記裏面シート及び前記コアラップを含むシートにおける平面視で前
記粒状層と重なる部分は、伸長可能である請求項 3 に記載の吸収性物品。

20

【請求項 5】

前記包装体及び伸長可能である前記シートは、長手方向及び幅方向の少なくともいずれ
かの方向に伸長し、

前記包装体と伸長可能である前記シートとが伸長する方向は、一致する請求項 2 乃至 4
のいずれか一項に記載の吸収性物品。

【請求項 6】

前記粒状層は、平面視において前記包装体により分けられた複数の粒状区分から構成さ
れる請求項 1 乃至 5 のいずれか一項に記載の吸収性物品。

【請求項 7】

前記粒状層は、前記吸収コアと前記裏面シートとの間に設けられる請求項 1 乃至 6 のい
ずれか一項に記載の吸収性物品。

30

【請求項 8】

前記吸収コアは、トウを有する繊維を含む請求項 1 乃至 7 のいずれか一項に記載の吸収
性物品。

【請求項 9】

前記粒状体は、樹脂発泡ビーズ粒である請求項 1 乃至 8 のいずれか一項に記載の吸収性
物品。

【請求項 10】

前記粒状層は、前記吸収コアと前記裏面シートとの間に設けられ、吸水性を有する繊維
を含む請求項 1 乃至 9 のいずれか一項に記載の吸収性物品。

【請求項 11】

表面シート及び吸収コアを有する吸収性物品であって、
多数の粒状体及び前記多数の粒状体を包む伸縮性を有する包装体を含む粒状層を備え、
前記粒状層は、前記包装体に対する圧力に応じて、前記粒状体が前記包装体内を移動し
、着用者の体の形状に追従するように前記吸収コアの形状を変形させる吸収性物品。

40

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、生理用ナプキン等の吸収性物品に関する。

【背景技術】**【0002】**

50

一般に、着用者の肌に当接する液透過性の表面シートと液不透過性の裏面シートとの間に吸収コアが設けられている吸収性物品が知られている。吸収性物品のうち特に生理用ナプキンでは下着により着用者の体の方に押し当てられ、着用者の体にフィットされるようにして使用される。

【0003】

しかしながら、生理用ナプキンの使用時において、例えば下着のサイズや下着の弾性部材の状態、着用者の体勢（例えば起立時や着席時、就寝時の姿勢）によって、生理用ナプキンが着用者の体型にフィットしない場合がある。そして、例えば、着用者にとって下着のサイズが大きすぎる場合等では、排泄口と生理用ナプキンとの間に隙間が空いてしまい、体液が漏れやすくなってしまったり、着用者は体液が漏れてしまうことの不安感を感じてしまったりする。一方、例えば、着用者にとって下着のサイズが小さすぎる場合等では、生理用ナプキンと体とが密着しすぎてしまい、心地よい装着感が損なわれ、着用者は吸収性物品の着用時に違和感を覚えてしまう。

10

【0004】

ここで、特許文献1には、着用者の体に対する圧力を分散させる吸収性物品が開示されている。具体的には、特許文献1に記載の吸収性物品は、吸収性ポリマーを含む2層の吸収コアを有し、2層の吸収コアの間にビーズ粒等からなる移動補助材が設けられている。特許文献1に記載の吸収性物品の吸収性ポリマーにおいて体液等が吸収されると、2層の吸収コア同士が向かい合う面に、粘性及び弾性を有するポリマー層が形成される。そして、形成されたポリマー層及びビーズ粒等からなる移動補助材により、2層の吸収コア同士はそれぞれが向かい合う面に沿ってズレやすくなり、着用者の体に対する圧力を分散させることができる。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特開2008-183159号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、特許文献1に記載の吸収性物品では2層の吸収コア同士が向かい合う面に沿ってしか吸収コアが移動しない。したがって、特許文献1に記載の吸収性物品では吸収性物品から着用者の体方向へのフィット性を高めることができない。

30

【0007】

そこで、本発明は、上述の課題に鑑みてなされたものであり、吸収性物品の形状を着用者の体の形状に追従させ、吸収性物品の装着感を向上させることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明の実施形態における表面シート10及び吸収コア31を有する吸収性物品1は、前記吸収コアを含む本体部2と、多数の粒状体及び前記多数の粒状体を包み、伸長可能な包装体63を含む粒状層60とを備え、前記粒状層は、前記表面シートよりも非肌当接面側において、平面視にて前記本体部の少なくとも一部に重なる。

40

【発明の効果】

【0009】

本実施形態における吸収性物品によれば、吸収性物品の形状を着用者の体の形状に追従させ、吸収性物品の装着感を向上できる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】本発明の実施形態における吸収性物品の肌当接面側から見た平面図である。

【図2】図1に示すA-A断面の模式断面図である。

【図3】着用時における図1に示すA-A断面の模式断面図である。

50

【図４】本発明の実施形態における包装体及び各シート（表面シート、裏面シート及びコアラップ）の伸長方向の一例を模式的に示す図である。

【図５】平面視における粒状層の移動の様子を模式的に示す図である。

【図６】断面図における粒状層の移動の様子を模式的に示す図である。

【図７】分離壁により分けられる粒状層の断面を模式的に示した図である。

【図８】本発明の実施形態の第１の変形例における包装体及び各シート（表面シート、裏面シート及びコアラップ）の伸長方向の一例を模式的に示す図である。

【図９】本発明の実施形態の第２の変形例における包装体及び各シート（表面シート、裏面シート及びコアラップ）の伸長方向の一例を模式的に示す図である。

【発明を実施するための形態】

10

【００１１】

（１）吸収性物品の全体構成

図１～図３を参照して、本実施形態における吸収性物品１の全体構成について説明する。なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率等は現実のものとは異なることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参酌して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれ得る。

【００１２】

図１は、吸収性物品の肌当接面側から見た平面図である。図２は、図１に示すＡ－Ａ断面の模式断面図である。図３は、吸収性物品の着用時における図１に示すＡ－Ａ断面の模式断面図である。本実施形態における吸収性物品１は、夜用の生理用ナプキンである。

20

【００１３】

吸収性物品１は、表面シート１０と、裏面シート２０と、表面シート１０と裏面シート２０との間に設けられる吸収体３０と、表面シート１０より非肌当接面側に設けられる粒状層６０とを有する。吸収体３０は、吸収コア３１と吸収コア３１を覆うコアラップ３２とを有する。吸収性物品１は、幅方向Ｗの中心ＷＣを含む本体部２及び本体部２と幅方向Ｗにおいて隣り合う側部３を有する。本体部２は、吸収コア３１（吸収体３０）を有する。側部３には、幅方向Ｗの外側に延出するウイング部４０及びヒップフラップ部５０が設けられる。側部３は、ウイング部４０の長手方向Ｌの前方側の根元部分より幅方向Ｗの外側の領域である。本体部２は、幅方向Ｗの中心ＷＣを含み、ウイング部４０の長手方向Ｌの前方側の根元部分より幅方向Ｗの内側の領域である。粒状層６０は、吸収性物品１の平面視において本体部２の少なくとも一部に重なるように設けられる。ここで、吸収性物品１の平面視とは、厚み方向Ｔにおいて離れた位置から展開状態の吸収性物品１を視認したものである。また、吸収性物品１の展開状態とは、図１に示す状態であり、吸収性物品が折り畳まれてなく、ウイング部４０及びヒップフラップ部５０が厚み方向Ｔにおいて本体部２に重なっていない状態である。

30

【００１４】

表面シート１０は、体液等の液体を透過する液透過性のシートである。表面シート１０は、少なくとも吸収体３０の表面を覆う。表面シート１０は、不織布、織布、有孔プラスチックシート、メッシュシート等、液体を透過する構造のシート状の材料であれば、特に限定されない。織布や不織布の素材としては、天然繊維、化学繊維のいずれも使用できる。

40

【００１５】

裏面シート２０は、体液等の液体を透過しない液不透過性のシートである。裏面シート２０は、平面視において表面シート１０に重なるような大きさを有する。裏面シート２０は、ポリエチレンシート、ポリプロピレン等を主体としたラミネート不織布、通気性の樹脂フィルム、スパンボンド、又はスパンレース等の不織布に通気性の樹脂フィルムが接合されたシート等を用いることができる。

【００１６】

50

吸収体 30 に含まれる吸収コア 31 は、体液を吸収可能な吸収材料によって形成される。吸収材料は、例えば、親水性繊維、パルプ、SAP、トウからなる繊維集合体等を含む。本実施形態における吸収コア 31 は、複数層のトウからなる繊維集合体及びSAPを含む。

【0017】

吸収体 30 に含まれるコアラップ 32 は、液透過性で高分子吸収体が透過しないバリア性を有するものにより形成される。コアラップ 32 は、例えば、天然繊維、化学繊維、ティッシュ等の織布又は不織布等である。

【0018】

本実施形態における吸収コア 31 は、例えば、トウからなる繊維集合体を、ティッシュに載せ、その上に、SAPを、例えば、約 80 g/m^2 散布し、次いで、その上に、トウからなる繊維集合体及び高吸収性ポリマー（約 80 g/m^2 ）を積層し、次いで、その上に、トウからなる繊維集合体及び高吸収性ポリマー（約 80 g/m^2 ）を積層し、その上に、ティッシュを積層し、次いで、プレス機で圧縮、例えば、 35 kg/cm^2 の圧力で 5 秒間圧縮することにより形成される。

【0019】

本実施形態における吸収コア 31 の坪量は、積層数、具体的な用途等によって変化するが、例えば、約 $10 \sim 1000 \text{ g/m}^2$ の坪量等を有することができる。

【0020】

ウイング部 40 は、非肌当接面側に折り返し可能に構成されており、着用時に下着のクロッチ部の非肌当接面側に折り返される。

【0021】

ヒップフラップ部 50 は、ウイング部 40 の長手方向 L の後方に位置する。ヒップフラップ部 50 は、着用時に下着の非肌当接面側に折り返されずに下着の肌当接面側に配置されるように構成されている。

【0022】

粒状層 60 は、多数の粒状体と、粒状体を包み伸長可能な包装体 63 とを含む。

【0023】

粒状体は、例えば、例えばポリスチレン発泡ビーズやポリオレフィン発泡ビーズのような疎水性の樹脂発泡ビーズである。樹脂発泡ビーズは、粒径が $1 \sim 5 \text{ mm}$ 程度であり、嵩密度が $0.01 \sim 0.1 \text{ g/cm}^3$ である。本実施形態における樹脂発泡ビーズは、一般にクッション又は枕や布団等の寝具に用いられるものが用いられてもよい。本実施形態の粒状層 60 では、多数の樹脂発泡ビーズが包装体を構成する袋状の布地に充填されている。包装体に対して圧力が加わると、圧力に応じて包装体内を樹脂発泡ビーズが移動する。本実施形態における粒状層 60 に対して圧力が加わるときの粒状体の動きは後述する。粒状層 60 の厚さ方向 T の反発力は、吸収コア 31 の反発力より大きくなるように構成される。ここで、反発力は、KES 圧縮特性試験において測定され、圧縮試験機、例えば、カトーテック株式会社製の KES（ハンディ圧縮試験機、型式：KES-G5）が用いられる。

【0024】

包装体 63 は、少なくとも長手方向又は幅方向に伸長可能である。包装体 63 において厚さ方向の外側であり、かつ肌当接面側の面（図 2 の例ではコアラップ 32 と接する面）及び非肌当接面側の面（図 2 の例では裏面シートと接する面）のうち少なくとも一方は、伸縮可能であることが好ましい。伸長可能な包装体 63 には、伸長性不織布が用いられ、例えば、伸長可能な熱可塑性のポリオレフィン繊維により形成される。伸縮可能な包装体 63 には、伸縮性不織布が用いられ、例えば、伸長可能な熱可塑性のポリオレフィン繊維と伸縮可能な熱可塑性のエラストマ繊維とを混合させることにより形成される。包装体 63 は、肌当接面側の面を伸縮性不織布、肌非当接面側の面を伸長性不織布として構成されてもよい。

【0025】

10

20

30

40

50

包装体 6 3 に延伸処理、例えばギア延伸加工を施すことにより、包装体 6 3 をより伸長可能にしてもよい。例えば、ギア延伸加工は、一对のギアロールのそれぞれの外周面に配置された複数の歯を互いに噛み合わせながら回転するギアロールの間に、包装体 6 3 を通過させることにより行われる。ギアロールを通過した包装体 6 3 は、より伸長可能となる。

【 0 0 2 6 】

粒状層 6 0 は、平面視において本体部 2 の少なくとも一部に重なるように設けられる。

【 0 0 2 7 】

粒状層 6 0 は、平面視において分離壁 6 2 により分けられた複数の粒状区分 6 1 から構成される。分離壁 6 2 は、粒状層 6 0 を複数の粒状区分 6 1 に分ける仕切りである。

10

【 0 0 2 8 】

粒状層 6 0 は、例えば親水性繊維、パルプ又は S A P 等の吸水性を有する繊維を含み、吸水性を有する繊維と粒状体（樹脂発泡ビーズ）とが互いに接合されていないように構成してもよい。

【 0 0 2 9 】

図 2 は、吸収性物品 1 の図 1 の A - A 断面を基準とした断面図である。図 2 に示すように、本実施形態の吸収性物品 1 では、粒状層 6 0 は、厚さ方向 T において、吸収体 3 0 と裏面シート 2 0 との間に設けられる。なお、粒状層 6 0 は吸収体 3 0 より非肌当接面側に設けられていればよく、例えば粒状層 6 0 は裏面シート 2 0 の非肌当接面側に設けられてもよい。

20

【 0 0 3 0 】

図 3 は、吸収性物品 1 が着用者に着用された状態（以下、着用状態という。）の図 1 の A - A 断面を基準とした断面図である。図 3 に示す着用状態では、吸収性物品 1 が着用者の両脚に挟まれている。図 3 に示すように、着用状態では、粒状層に対する圧力に応じて、包装体 6 3 が伸長し、包装体 6 3 内で粒状体が自由に移動し、吸収体 3 0 の形状を変化させる。

【 0 0 3 1 】

図 4 は、本実施形態における包装体 6 3 及び各シート（表面シート 1 0、裏面シート 2 0 及びコアラップ 3 2）の伸長方向の一例を模式的に示す図である。図 4（A）は、包装体 6 3 が幅方向 W に伸長可能な例を示している。図 4（B）は、包装体 6 3 が長手方向 L に伸長可能な例を示している。なお、包装体 6 3 の伸長可能な方向は、長手方向 L 及び幅方向 W であってもよい。また、包装体 6 3 は、伸縮可能であってもよい。

30

【 0 0 3 2 】

（ 2 ）粒状層の機能

図 5 は、平面視における粒状層 6 0 内の粒状体の移動の様子を模式的に示す図である。図 5（A）は、粒状層 6 0 に対して圧力が掛かっていない状態である。図 5（B）は、粒状層 6 0 に対して厚さ方向 T の圧力 F が掛かっている状態である。図 5（B）に示すように、圧力 F が掛かっている圧力の高い部分から他の圧力の低い部分に対して粒状体が移動する。

【 0 0 3 3 】

図 6 は、厚さ方向 T に平行な断面図における粒状層 6 0 内の粒状体の移動の様子を模式的に示す図である。図 6（A）は、吸収性物品 1 に対して、厚さ方向 T の圧力 F が掛かる前の状態（圧力が掛かっていない状態）である。図 6（B）は、吸収性物品 1 に対して、厚さ方向 T の圧力 F が掛かっている状態である。図 6（B）に示すように、圧力 F は、表面シート 1 0 及び吸収体 3 0（吸収コア 3 1、コアラップ 3 2）を介して、包装体 6 3 に対して掛けられる。包装体 6 3 が吸収性物品の厚さ方向 T の圧力 F を受けると、包装体 6 3 は厚さ方向 T に伸長し、包装体 6 3 に包まれている粒状体が粒状層 6 0 内において圧力が高い方から低い方に移動する。圧力が低い方に移動した粒状体が、包装体 6 3 を伸長させ、平面視において重なる吸収体 3 0 及び表面シート 1 0 を厚さ方向 T に押し上げる。このように、吸収性物品 1 に粒状層 6 0 が設けられ、粒状体を包む包装体 6 3 が伸長可能で

40

50

あることにより、粒状層 60 に対する圧力に応じて、包装体 63 が伸長し、粒状体が伸長された包装体 63 内を移動するため流動性が高まる。このように、着用者の体の形状に追従するように吸収体の形状を変形させることができる。したがって、吸収性物品 1 の着用状態では吸収性物品 1 に対する圧力に応じた凹凸形状が吸収体 30 及び表面シート 10 上で形成され、吸収性物品 1 が着用者の体の形状に沿うように変化する。

【0034】

なお、着用状態における吸収性物品 1 に対する圧力は、厚さ方向 T に限らず、幅方向 W 及び長手方向 L においても加わる。厚さ方向 T の圧力が掛かる場合同様、幅方向 W 及び長手方向 L の圧力が掛かる場合においても、粒状層 60 内の粒状体は圧力の高い部分から圧力の低い部分に移動する。

【0035】

(3) 粒状層の構成

図 7 は、粒状層 60 の構成を説明するための模式断面図である。図 8 に示すように、粒状層 60 には粒状体を包む包装体 63 が設けられ、分離壁 62 により分けられている複数の粒状区分 61 により構成される。なお、分離壁 62 は、図 7 に示すように一つの包装体を線状に接合することにより形成されてもよいし、複数の別個の包装体同士を接合することにより両者が接する面状として形成されてもよい。

【0036】

(4) 第 1 の変形例における吸収性物品

図 8 は、本発明の実施形態の第 1 の変形例における包装体 63 及び各シート（表面シート 10、裏面シート 20 及びコアラップ 32）の伸長方向の一例を模式的に示す図である。第 1 の変形例における包装体 63、表面シート 10、裏面シート 20 及びコアラップ 32 のうち少なくともいずれか一つは、長手方向 L 又は幅方向 W に伸長可能である。図 8 (A) は、包装体 63 とコアラップ 32 とが幅方向に伸長可能な例を示している。図 8 (B) は、包装体 63 は長手方向 L に伸長可能であって、表面シート 10 は幅方向 W に伸長可能な例を示している。なお、伸長可能な表面シート 10、裏面シート 20 及びコアラップ 32 において伸長する部分は、平面視で粒状層 60 と重なる部分であればよい。第 1 の変形例における吸収性物品 1 によれば、吸収性物品 1 の形状を着用者の体の形状に追従させ、吸収性物品 1 の装着感を向上できる。

【0037】

(5) 第 2 の変形例における吸収性物品

図 9 は、本発明の実施形態の第 2 の変形例における包装体 63 及び各シート（表面シート 10、裏面シート 20 及びコアラップ 32）の伸長方向の一例を模式的に示す図である。第 2 の変形例における包装体 63、表面シート 10、裏面シート 20 及びコアラップ 32 の全ては、長手方向 L 又は幅方向 W に伸長可能であって、伸長する方向が一致する。図 9 (A) は、包装体 63、表面シート 10、裏面シート 20 及びコアラップ 32 が幅方向 W に伸長可能な例を示している。図 9 (B) は、包装体 63、表面シート 10、裏面シート 20 及びコアラップ 32 が長手方向 L に伸長可能な例を示している。なお、伸長可能な表面シート 10、裏面シート 20 及びコアラップ 32 において伸長する部分は、平面視で粒状層 60 と重なる部分であればよい。第 2 の変形例における吸収性物品 1 によれば、吸収性物品 1 の形状を着用者の体の形状に追従させ、吸収性物品 1 の装着感を向上できる。

【0038】

(6) 作用・効果

粒状層 60 が吸収性物品の厚み方向の圧力を受けることにより、粒状層 60 に含まれる多数の粒状体が粒状層内で四方八方に移動する。粒状体は、粒状層内において圧力が高い部分から低い部分に移動する。

【0039】

本実施形態の吸収性物品 1 は、多数の粒状体を包む、伸縮可能な包装体 63 を含む粒状層 60 を備えるように構成される。

10

20

30

40

50

【 0 0 4 0 】

吸収性物品 1 の着用時に、着用者からの圧力は、表面シート 1 0 を介して、包装体 6 3 に掛けられる。そして、包装体 6 3 に含まれる多数の粒状体は、包装体 6 3 において圧力の高い部分の粒状体が、包装体 6 3 において圧力の低い部分の方に移動する。そして、包装体 6 3 内を移動した粒状体により、表面シート 1 0 が厚み方向に押し上げられる。これにより、着用者の体の形状に沿うように吸収性物品 1 の形状が変化し、吸収性物品 1 の装着感を向上させることができる。

【 0 0 4 1 】

ここで、粒状体を包む包装体 6 3 が伸長可能であることにより、包装体 6 3 において圧力が掛けられた部分が圧力の方向に伸長して変形することで、伸長しない包装体 6 3 が用いられる場合に比べ、粒状体に掛かる圧力は高くなる。すなわち、圧力の変化に応じて移動する粒状体を多くすることができる。

10

【 0 0 4 2 】

さらに、包装体 6 3 における圧力の高い部分から低い部分に移動した粒状体により伸長可能な包装体 6 3 が伸長される。これにより、伸長しない包装体 6 3 が用いられる場合に比べ、粒状体は、圧力が掛かっていない状態の包装体 6 3 のサイズを超えた範囲において移動可能となる。

【 0 0 4 3 】

このように、包装体 6 3 が伸長可能であることにより、伸長しない包装体 6 3 が用いられる場合に比べ、粒状体を包装体 6 3 内で移動しやすくすることで、より吸収性物品 1 を着用者の体に追従させやすくし、吸収性物品 1 の装着感を向上させることができる。

20

【 0 0 4 4 】

また、吸収性物品 1 における本体部 2 のうち粒状層 6 0 が配置された部分では、着用者の体からの圧力の変化に応じて粒状体が移動し、体の形状に沿うように吸収コア 3 1 の形状が変化する。

【 0 0 4 5 】

これにより、粒状層 6 0 が配置された部分では吸収性物品 1 1 と着用者の体との間に隙間が生じなくなり、吸収性物品 1 1 の外部への体液の漏れを防止できる。

【 0 0 4 6 】

包装体 6 3 における肌当接面側及び非肌当接面側のうち少なくとも一方の面が、伸縮可能であることにより、包装体 6 3 に対して掛かっていた圧力が解放された場合、包装体 6 3 は元の形状（サイズ）に戻ることができる。そのため、着用者の姿勢が変わったり、一度吸収性物品 1 を着脱した後、再度使用したりする場合においても、都度着用者の体からの圧力の変化に応じて粒状体が移動し、体の形状に沿うように吸収コア 3 1 の形状を変化させることができる。

30

【 0 0 4 7 】

表面シート 1 0、裏面シート 2 0 及び吸収コア 3 1 を覆うコアラップ 3 2 を含むシートのうち少なくともいずれか一つが伸長可能であるように構成される。これにより、着用時に吸収性物品 1 が変形される際、伸長可能なシートが伸長するため、吸収性物品 1 が体に追従するための変形を妨げないようにすることができ、より吸収性物品 1 の装着感を向上させるとともに体液の漏れを防止できる。

40

【 0 0 4 8 】

表面シート 1 0、裏面シート 2 0 及びコアラップ 3 2 のうち平面視で粒状層 6 0 と重なる部分は、伸長可能であるように構成されることにより、下着の動きに合わせて、吸収性物品 1 が伸長可能であるため、粒状体の移動に合わせて吸収性物品 1 本体も伸長でき、体の動きに吸収性物品 1 が追従できる。

【 0 0 4 9 】

包装体 6 3 及び伸長可能であるシート（表面シート 1 0、裏面シート 2 0 及びコアラップ 3 2）は、長手方向 L 及び幅方向 W の少なくともいずれかの方向に伸長する。また、包装体 6 3 と伸長可能であるシートとが伸長する方向は一致するように構成される。これに

50

より、着用時に長手方向L及び幅方向Wに折り曲げられる（変形する）吸収性物品1の変形の方向に沿って、包装体63及び伸長可能であるシートが同じ方向に伸長する。すなわち、伸長する方向が異なる場合に比べ、吸収性物品1が体に追従するための変形をよりし易くでき、吸収性物品1の装着感の向上及び体液の漏れを防止できる。

【0050】

粒状層60は、平面視において包装体63により分けられた複数の粒状区分61から構成される。例えば、粒状層60が包装体63により分けられていない場合（粒状体が一つの包装体に包まれている場合）、ある一方向に粒状体が偏ってしまう。この場合、吸収性物品1の部分によっては着用時ににおいて圧力の変化に応じて移動する粒状体が少ない状態が発生しうる。一方、本実施形態の吸収性物品1のように、粒状層60を包装体63により分けることにより、粒状層60に含まれる粒状体のある方向への偏りを減らし、着用状態における圧力の変化の大きさが異なる部分に応じて適当な量の粒状体を配置できる。すなわち、粒状区分61を吸収性物品1の全体、つまり広範囲に渡って配置することで、吸収性物品1の全体において、圧力の変化に応じて吸収性物品1の形状を着用者の体の形状に追従させやすくできる。

10

【0051】

粒状層60は、吸収コア31と裏面シート20との間に設けられることにより、粒状層60が表面シート10と吸収コア31との間に設けられる場合に比べ、表面シート10を介して吸収コア31が体液を吸収するため、吸収性物品1の吸収能力を低下させることがない。

20

【0052】

吸収体30は、トウからなる繊維集合体を含む。吸収体30がより嵩高になるトウからなる繊維集合体を含むことにより、着用状態における体と吸収性物品1とが接しやすくなり、より装着感を向上できる。

【0053】

粒状層60に含まれる粒状体が、流動性の高い樹脂発泡ビーズ粒であることにより、粒状層60の包装体63内を移動しやすく、吸収性物品1の形状が体の形状に追従しやすく変形できる。

【0054】

粒状層60は、吸収コア31と裏面シート20との間に設けられ、吸水性を有する繊維を含み、粒状層60に含まれる吸収性を有する繊維と粒状体とは互いに接合されていないように構成される。これにより、粒状層60においても体液の吸収が可能となり、吸収性物品1の吸収能力を向上させることができる。

30

【0055】

（7）その他の実施形態

本実施形態の吸収性物品は、夜用の生理用ナプキンであるが、下着により体に押し当てて使用される吸収性物品であればよく、他の実施形態として、昼用の生理用ナプキンやパンティライナー、尿取りパッドであってもよい。また、生理用ナプキンは、ヒップフラップを備えていなくてもよい。

【0056】

以上、上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものではないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。従って、本明細書の記載は、例示説明を目的とするものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

40

【符号の説明】

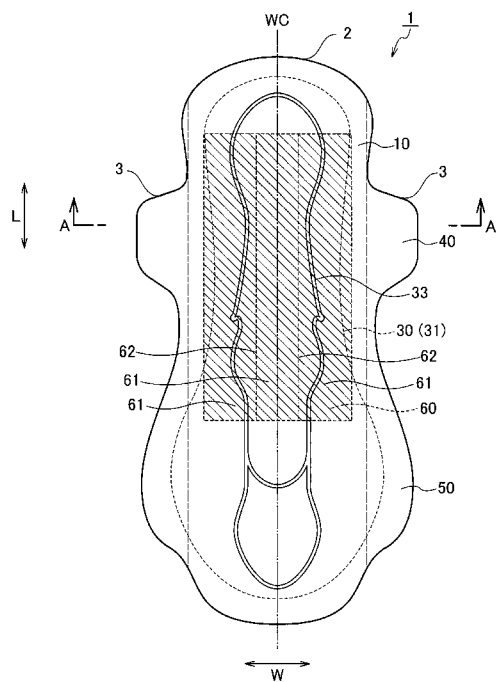
【0057】

- 1 吸収性物品
- 2 本体部
- 3 側部

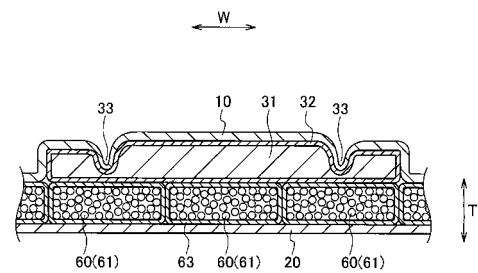
50

1 0	表面シート
2 0	裏面シート
3 0	吸収体
3 1	吸収コア
3 2	コアラップ
3 3	圧搾部
4 0	ウイング部
5 0	ヒップフラップ部
6 0	粒状層
6 1	粒状区分
6 2	分離壁
6 3	包装体
L	長手方向
W	幅方向
W C	幅方向中心
T	厚さ方向

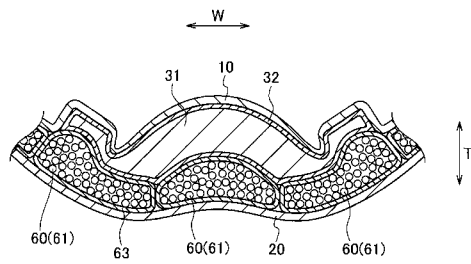
【図 1】



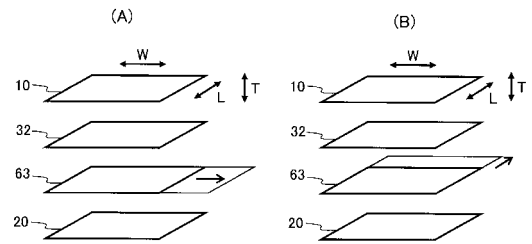
【図 2】



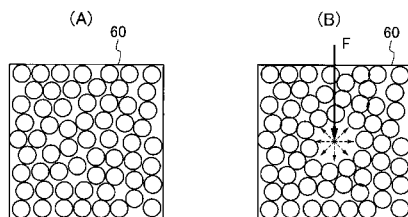
【 図 3 】



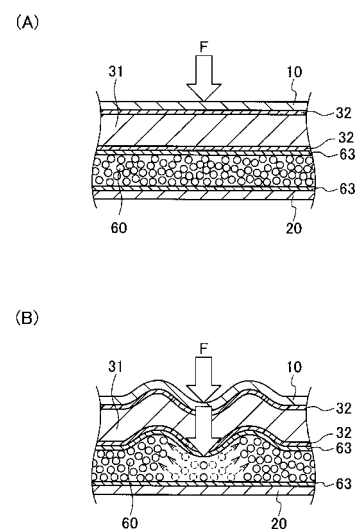
【 図 4 】



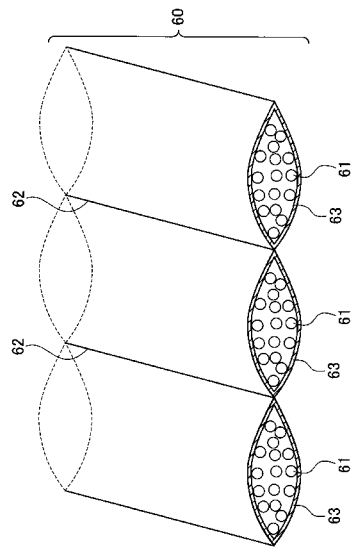
【 図 5 】



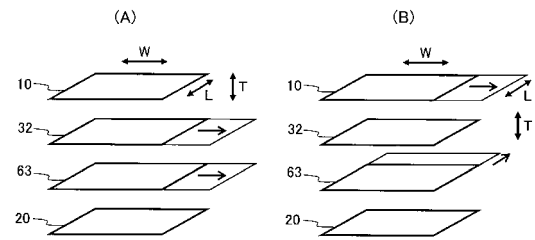
【 図 6 】



【 図 7 】



【 図 8 】



【 図 9 】

